

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第7回春日区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

① 自主的審議事項について

3 開催日時

令和元年8月7日（水）午後6時30分から午後7時30分まで

4 開催場所

上越市市民プラザ 多目的学習室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：池杉清子、今井 孝、大竹明德（副会長）、金子隆一、渋木 俊（副会長）、
田沢 浩、谷 健一、野澤武憲、藤田晴子、星野剛、吉田幸造（会長）、
吉田 実、鷺澤和省（欠席6人）

・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【藤井係長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、成立を報告

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【吉田会長】

・会議録の確認：渋木副会長に依頼

本日は会議終了後、各分科会に分かれて審議し、分科会での審議終了後は各自解散

とする。

議題に入る。次第2 議題「(1) 協議事項」の「①自主的審議事項について」に入る。
本日の審議の進め方について事務局に説明を求める。

【藤井係長】

・進め方について説明

【吉田会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

では、各分科会から、それぞれのテーマに関する進捗状況について報告願う。最初に福祉分科会に報告を求める。

【谷委員】

福祉分科会では、春日地域の多くの組織や団体が一体となって懇談する場を設けるため、春日地区町内会長連絡協議会の清水会長に会い、文書でもお願いしてきたが、その内容のままでは、なかなか進まない状況となっている。

何としても懇談の場、話し合いの場を持ちたいと考え、本日、清水会長と話し、当初の依頼の内容を変更して、町内会長連絡協議会と地域協議会による少人数での話し合いの場を持ちたいと説明した。これにより、懇談会開催について検討いただくことについては、了承を得た。

【吉田会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

【鷺澤委員】

福祉分科会について補足する。

福祉分科会は、高齢者福祉等の特定の分野に限らず、地域住民が心豊かに暮らすことができ、春日区に住んでよかったと思えるまちづくりのためにどう取り組めばよいかを、全体の課題として進めている。

また、地域全体を包括できる新しい組織を作ってはどうかとも考えている。

そのため、まちづくりの中心となる団体である町内会長連絡協議会と連絡を取りながら進めていきたいと考え、その話し合いの場を設けるべく、町内会長連絡協議会の清水会長と今後について話を進めている段階である。

今後話し合いの骨子が決定した際には、吉田会長に参加いただき、また協議会の各委員から賛同を得て進めていきたい。

【吉田会長】

他に意見等はあるか。

【田沢委員】

参加する町内会長の範囲は決まっているか。

【谷委員】

参加する町内会長の範囲については、先方の判断に任せる。こちらから指名等ではできないため、清水会長から指名してもらうことになると考えている。これまでは、話し合いの場を持つこと自体が無かったため、まずは少人数での話し合いの場を持つべく打合せをしている状況であり、参加する町内会長については何も決まっていない。

【吉田会長】

他に意見等はあるか。

(発言なし)

では、次に観光分科会に報告を求める。

【田沢委員】

当初、観光分科会としては、様々な内容を実施したいと考えていたが、現実路線に転換し、特産品開発に絞って取り組むこととした。

下期は、比較的取り組みやすい青苧の蒲鉾の開発を中心に考えている。すでに見本を前回の協議会にて委員に試食してもらっており、今後は、どのように販売できるところまで進めていくかを、この後の分科会にて詰めていきたいと思っている。間に合うのであれば、8月の謙信公祭での販売を考えているが、相手のある話であるため、短期間での実現が可能かはわからない。

いずれにしても、特産品の開発は、ほぼ実現可能と考えている。

【吉田会長】

今の説明に質疑を求める。

【吉田 実委員】

青苧に特化した取組であるが、青苧はもともと繊維の原材料であり、食べ物に適しているか疑問に感じている。あまり青苧にこだわらず、上越または春日区周辺の特産の物を活かしてはどうかと考える。日本酒など何でもよいと思うが、もう少し広い視

野で考えてはどうか。

【田沢委員】

この後の分科会において参考とする。

【吉田会長】

他に意見はあるか。

【金子委員】

今年度の地域活動支援事業の審査を通じて、特産品の開発には相当な予算がかかると感じている。予算の捻出方法について、どのように考えているか。

【田沢委員】

分科会としては予算を出す予定はないため、すべて相手方が負担するかたちで進めている。それらの交渉については、相手方に迷惑をかけない範囲で進めている。

【金子委員】

相手方とは、具体的にどのような人を指すのか。

【田沢委員】

事業を実施していただく予定の蒲鉾業者と、初回に青芋の原料を提供していただいた十日町の間屋のことである。

【吉田会長】

次に、安全安心分科会に報告を求める。

【吉田 実委員】

最初に取り組んだ交通危険箇所については、意見書としてまとめ、提出することを予定している。せめて、第三期の地域協議会の自主審議のテーマとして、これだけはまとめたい。要望書(案)として作成したものがあるため、分科会にて協議し、次回協議会で披露できればと思っている。

今回は、洗い出しを行った4か所の危険箇所について、今一度、おさらいのためまとめたので見て欲しい。

・プロジェクター投影

最初に、春日山駅南側の踏切である。この問題は歩道がないことである。

次に、春日山町1丁目交差点の南側である。冬季は（除雪で）押された雪で、歩道が無くなってしまう。

次に、藤新田と岩木の間の小峰橋である。車が通ると人が歩くスペースが無くなっ

てしまう。

次に、春日小学校正門南側の公園の歩道である。こちらも冬季は雪が積もると、歩行者は車道を通らなければならないため、非常に危険である。

続いて、対応策について、春日山駅南側の踏切については、踏切北側に歩道を設ける程度のスペースがあるため、最少費用での歩道設置を提案していきたい。次に投影した画像は、藤巻から大学方面への道路にある踏切のスライドで、歩道設置の参考資料である。

次に、小峰橋である。小峰橋の脇に歩道橋のようなものを設置できればと考えている。相当な予算がかかると思うが、一案として関係機関に検討してもらいたいと思っている。意見書に記載しなくとも、関係機関との協議というかたちでまとめにしたい。次に投影した画像は、頸城区内で、車道と歩道の二つの橋を設置している例である。

春日小学校南側の歩道と春日山町1丁目交差点の南側については、歩道をいかに確保できるかを問題提起したいと思っている。

以上の4か所については、任期中にまとめ、終了させたいと考えている。このほか、空き家問題や様々な学習については、今後どうするか分科会で協議していきたい。

【吉田会長】

今の説明に質疑を求める。

【田沢委員】

費用についても検討しているのか。

【吉田 実委員】

そこまでは行っていない。具体的な対応は担当課等に任せたい。

【吉田会長】

他に意見等あるか。

(発言なし)

以上で次第2 議題「(1) 協議事項」の「①自主的審議事項について」を終する。

次に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認」について事務局に説明を求める。

【藤井係長】

- ・ 次回の協議会：9月12日（木）午後6時30分から 上越市市民プラザ
- ・ 内容：自主的審議事項について

【吉田会長】

次に「(2) その他」について意見等のある委員は発言願う。

【鷺澤委員】

この後の分科会に関わる内容ではないが、地域協議会全体に関わる問題を提起したいと思うが、よいか。

【吉田会長】 今程の鷺澤委員の発言に賛成の委員は挙手願う。

(挙手多数)

鷺澤委員の発言を認める。

【鷺澤委員】

今期の地域協議会となって3年半が経過し、問題点が明らかになってきたと考えている。

例えば、地域住民の春日区地域協議会の認知度が非常に低いと感じている。今後はもっと、地域協議会の役割を地域住民に認知してもらえる活動が必要ではないかと考えている。他の地域協議会では、地域協議会だよりを、事務局で出しているもののほかに発行しているところもあり、日常的に議論されている話題やまちづくりのための課題、提案を求める内容で発行している。そのように、地域の活性化を進めながら認知度を高めている地域もある。

時間があれば、春日区地域協議会が設立された根拠や、委員の役割を十分に果たすため、課題について考えて行かなければならないと考えている。今後、時間の許す限り、地域協議会の役割、地域を活性化するための新しい課題、分科会に集約できないような課題等についてフリートークを行い、協議会だよりの発行ができればと思っている。

【吉田会長】

今ほどの意見は、大事なことであると思う。今後、時間を取り議論できればよいと考える。

【吉田 実委員】

前回の地域協議会にて、春日山荘について担当課より説明があったが、まだはっきりと決まっていないとの話であり、はぐらかされたと感じている。

実際のところ、町内会長に聞いても、もう無くなるとか、利用者からも、もう廃止だというふうに聞いているということなので、当事者である社会福祉協議会に直接説明を求めてはどうかと考えている。

春日山荘は、市の管理ではなく、社会福祉協議会に譲渡したものであるため、市としては直接的な話にはできないと思う。地域協議会が音頭を取り、春日山荘の行く末をどうすべきかを協議してはどうかと考えている。

町内会長連絡協議会から、協議会として検討して欲しいとの声もあり、町内会長と地域協議会が協議する場を設けてはどうかと考えている。テーマは、春日山荘だけではなく、自主審議の内容を説明してもよい。地域協議会をアピールする一つ的手段として、春日謙信交流館等を利用して、春日山荘の存続についてというようなテーマの懇談を、任期中に開催したいと思う。

そのためにも、直接、社会福祉協議会から説明を聞きたい。社会福祉協議会としての言い分もあると思っている。趣味の家の役割を市から委託されたが、補助金が年々減額され、赤字では社会福祉協議会としても存続できないというのが本音だと思う。また、廃止となった場合、これまでの利用者をどのように考えているのかを知りたい。

町内会長連絡協議会と協議し、活動を継続できる方法や解決策を検討してほしい。利用者は春日区の住民だけではなく、全市から集まっているため、春日山荘の今後について、議題の一つにしていきたい。

【吉田会長】

町内会長連絡協議会との協議については、10月から11月には予定したいと考えている。それまでに、社会福祉協議会からの説明の場を設けられればよいと思っている。

これについて事務局と相談し、詳細が決まり次第報告する。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。